

# 平成24年度 学校自己評価システムシート ( 県立深谷はばたき特別支援学校 )

目指す学校像	児童生徒が生き生きと学び、活動し、教職員が元気で活気のある学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 キャリア教育の視点を踏まえた教育課程編成に向けた実践研究に取り組む。 2 児童生徒一人一人の障害特性に応じた「自立活動」の指導の充実に取り組む。 3 生活単元学習や作業学習など、領域・教科を合わせた指導の充実に取り組む。 4 児童生徒の自立や社会参加に向け、外部人材と協働した取組に努めるとともに、地域、保護者とともに歩む学校づくりを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒名	1名
	事務局(教職員)	6名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 1 月 2 4 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○児童生徒個々のニーズ及び障害特性を踏まえた指導の充実に向け、キャリア教育の視点で実践研究に取り組む必要がある。 ○小学部、中学部、高等部の段階を踏まえたキャリア教育の実現に向け、計画的な授業研究に取り組む必要がある。	キャリア教育の視点を踏まえた教育課程編成	①教育課程検討委員会を中心にキャリア教育の視点を踏まえた教育課程編成の検討及び教育支援プランの効果的活用 ②研究部を中心にキャリア教育の視点を踏まえた教育課程づくりに向けた計画的な実践研究	①各学部・自立活動部において、児童生徒の実態を踏まえた系統的な教育課程編成に向けた検討が行われたか。 ①②各学部において、計画的に授業研究を実施することができたか。	①②キャリア教育の視点を踏まえた教育課程編成について学部毎に実践的な研究に取り組んだ。また、知的障害及び自閉症のある児童生徒の自立活動について、自立活動専任教員を中心に、キャリア教育の視点を踏まえた内容の整理に取り組みはじめた。	B	各学部ともキャリア教育の視点を踏まえた教育課程編成の在り方について、一定の整理ができてきた。一方、学校全体として各教科等を合わせた指導や自立活動の在り方についての整理は十分でない。今後、目指す児童生徒像について、学部を超えた実践研究と研究協議の場を設け、学校全体の意識とする必要がある。
2	○児童生徒の社会自立を目指しOJTの活用など実践的な研修を実施するなど、自立活動の指導の授業改善に積極的に取り組む必要がある。 ○一定の集団の中で個別的な対応の充実を図る自立活動の在り方について実践的な研究を進める必要がある。	児童生徒の障害特性に応じた自立活動の指導の充実	①自立活動専任教員による計画的な授業研究の実施 ②自立活動部を中心とした障害特性に応じた自立活動の指導内容及び方法の検討・整理	①障害特性に応じた授業研究に取り組むことができたか。 ②専任教員を中心に各学部の教員と連携して発達段階に応じた自立活動の内容等の整理に取り組むことができたか。また、校内研修会を計画的に実施できたか。	①学部毎に専任教員が担当児童生徒の障害特性を踏まえた実践研究に取り組んだ。成果報告を12月に実施した。 ②専任教員を中心に、知的障害及び自閉症のある児童生徒の自立活動の在り方についてキャリア教育の視点を踏まえた整理に取り組みはじめた。 【再掲】	B	自立活動は、障害のある児童生徒にとって極めて重要な指導である。しかしながら、自閉症などの児童生徒に対する指導は十分確立できていない。そのため、今年度実施したOJTを活用した教員研修をさらに充実させるなど、障害特性を踏まえた教員の指導力向上に取り組む必要がある。
3	○児童生徒の社会自立を実現させるため、自立活動だけでなく、生活単元学習や作業学習など、各教科等を合わせた指導の充実に取り組む必要がある。 ○授業改善に積極的に取り組む必要がある。	各教科等を合わせた指導の充実	①研究部を中心とした計画的な授業研究の実施 ②授業改善に向けた教員相互による授業評価等の実施 ③学校公開週間の実施 ④企業向け学校公開の実施 ⑤民間企業との連携による作業実習の実施	①②領域・教科を合わせた指導の授業研究に計画的に取り組むことができたか。 ③学期毎に実施できたか。 ④年間2回程度の企業向け学校公開が実施できたか。 ⑤中学部から民間企業等と連携した作業実習を実施することができたか。	①②③初任者の授業研究を中心に学部毎に毎学期授業研究を実施した。また、学部毎の研修、「いとこ発見週間」における教員相互の授業観察により授業改善につながった。④労働関係機関と連携し実施できた。 ⑤生徒の実態を踏まえた実習に取り組んだ。	A	学部毎に児童生徒の障害特性を踏まえた指導実践に取り組めるようになってきた。ただ、自閉症児に対する指導については、かかわりの構造化を含め更に研修を積み、指導力の向上に努める必要がある。また、作業実習の内容を更に充実させる必要がある。
4	○特別支援教育に関する情報提供等に努める必要がある。 ○民間企業を含め地域と連携した取組を積極的に進める必要がある。 ○保護者、スクールバス会社及び学童と連携した危機管理対応に努める必要がある。	地域から信頼される学校づくり	①学校公開週間及び授業参観の定期的な実施【再掲】 ②親子教室の計画的な実施及びHP等を活用した情報提供 ③民間企業との連携による作業実習の実施【再掲】 ④体育祭、文化祭等における外部団体参加機会の設定 ⑤危機管理防災(新設)を中心に実践研究に取り組む。	①学期毎に実施することができたか。また、アンケートを実施し、8割以上の方から理解が得られたか。保護者会の出席率が8割以上であったか。 ②PTA地域支援部と連携して親子教室に取り組むことができたか。 ④実施できたか。 ⑤引き渡し訓練等に取り組むことができたか。	①学校公開に参加した地域の方からは概ね満足するといった結果が得られた。一方、保護者会の出席率は目標値を下回った。また、教育内容に対する課題も指摘された。②PTA地域支援部の積極的な取組により充実した内容で実施できた。④⑤地域の方や保護者の協力により、当初の計画通り実施できた。	A	教職員及びPTAの組織力により、当初の計画通り実施できたと考えている。ただ、保護者会への出席率は昨年度より下がっており、連携を大切にしている特別支援学校としては評価できるものではない。その要因として、支援プランを効果的に活用できていない状況があると考えている。よりよい活用方法について検討を進める必要がある。

実施日	平成25年 2月 5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・校長の思いをスタッフがしっかり受け止め、キャリア教育の視点から色々なことにチャレンジした結果、チーム力が向上したことは、大いに評価できる。          ・生徒が3割増えているが、学校のボリュームが大きくなって保護者アンケートの結果から、頑張っていることがうかがえる。          ・高等部の生徒数が増え、多様化が進んでいる。軽度の生徒に力を入れたいのもわかるが、重度の生徒にも目を向けてほしい。</p> <p>・子どもたちにとって、将来の社会自立に向けて様々な体験を積むことが大切である。同じように民間でも取り入れていることの多いOJTなどの体験的な研修は、教員の指導力向上に有効だと思う。より積極的に取り組んでほしい。          ・年度が変わっても、子どもの障害特性を踏まえた指導の引き継ぎをしっかり行ってほしい。それが子どもの着実な成長につながると思う。</p> <p>・都内のカフェで行った生徒の美術作品展は大好評であった。今後も継続して取り組んでほしい。感想ノートを置くと子どもの取組によりフィードバックができる。          ・中学部の現場実習は、子どもも保護者も将来の見通しをもって今やるべきことを考えるとてもよい機会となった。担任がついた丁寧な指導も安心につながったと思う。</p> <p>・特別支援学校は殻に閉じこもってしまう傾向があるように感じていたが、本校は運動会や文化祭などを見ると、いい学校をつくろうという意識をもち、児童生徒も教員も頑張っている。          ・障害者は割り切ることができない。だから地域、学校、保護者が同じ気持ちで子どものために取り組む必要がある。それには本音でコミュニケーションをとることだ。</p>	